

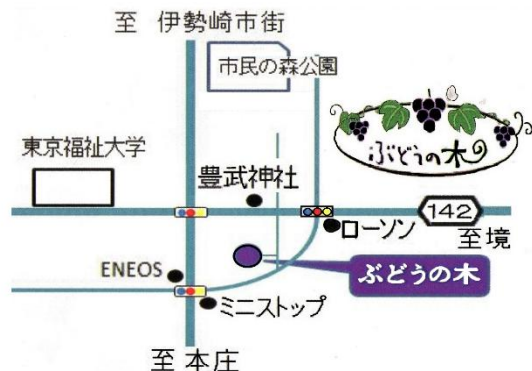


社会福祉法人キャッチジャパン



施設長 森村静枝

ぶどうの木は、今年9年目の指定障がい福祉サービス事業所



「ぶどうの木」は、伊勢崎市南部に位置し、近くには東京福祉大学や市民の森公園があります。また今年4月には、従たる事業所として伊勢崎市境町に「中澤カフェ」という古民家カフェをオープンしました。

私たちは、ノーマライゼーションの考えの下、地域の方々とふれあいながら、障がいを持った方一人ひとりの個性や可能性を見出し、共に歩んで行こうと努めております。

施設の概要

■ <利用者定員>

生活介護：10名

就労継続支援B型：20名

■ 所在地

伊勢崎市大正寺町136-1

☎0270-31-2727

■ <職員構成>

サービス管理責任者：1名

職業指導員：4名

生活支援員：5名

看護師：2名 嘱託医：1名

事務員：1名



一日の流れ

- 8:30 日課開始 送迎車出発
- 9:30 送迎車到着 体操・散歩
- 10:00 作業開始
- 12:00 昼食
- 13:00 作業開始
- 15:00 作業終了 掃除
- 15:30 送迎車出発
- 17:00 日課終了



作業内容

- ☆受託作業（リネンたたみや箱折り、部品の袋づめ、広報配送、除草作業など）
- ☆自主製品作業（ビーズアクセサリなど手工芸品作り、お菓子作り、野菜作りなど）
- ☆カフェでの接客・配膳や清掃の仕事など

販売を行っている自主製品

- ★ ビーズ雑貨・アクセサリ
- ★ アクリルたわしなど
- ★ 季節の野菜
- ★ クッキー各種
- ★ チーズケーキ・ガトーショコラ
- ★ マフィン各種
- ♥お菓子の詰め合わせギフトボックスもお作り致します。（500円から）

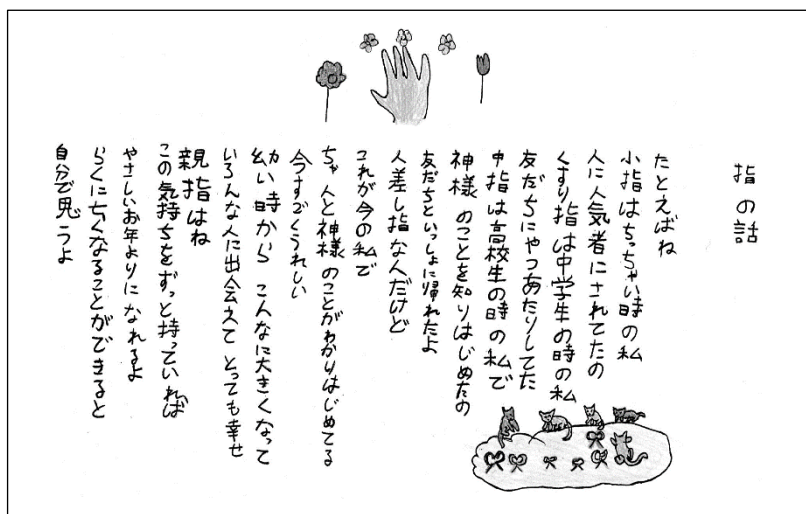
中澤カフェ

明治期に建てられた商家を利用した古民家カフェ。ぶどうの木特製のチーズケーキとガトーショコラと挽きたて珈琲を楽しめます。敷地内には蔵やお庭もあり5月ごろにはバラが見ごろ。（伊勢崎市境町 281 ☎0270・74・0668）

年間行事…地域の方々とともに

1月 餅つき 新年会
2月 豆まき

4月 お花見
9月 ぶどうの木まつり
10月 旅行
12月 クリスマス会



ぶどうの木の仲間のいずみさんの作品は絵はがきに！



ぶどうの木によせて

白石ひろ美

去る9月10日、第10回ぶどうの木まつりが、施設利用者や地域の方々が参加して、楽しく賑やかに開催されました。

ぶどうの木が社会福祉法人として認可されて10年。今、施設では様々な障害を持った人達が生き生きと活動しています。

ここに至るまでには、森村大地君の誕生から始まるご両親森村ご夫妻の忍耐と努力と深い愛情に満ちた長い道のりがありました。

産まれてすぐ、高熱による脳性麻痺という障害を持った大地君が小学校に入学するまで、伊勢崎女子高校 JRC の生徒達や多勢のボランティアが、キャッチ療法という、四肢を動かし、脳を刺激する訓練の手助けをしました。ご夫妻はこのキャッチ療法を、全国の同じ障害のある子供達とその家族に広めようと、伊勢崎に拠点を作り、イギリスから理学療法士を招き、アセスメントのサポートをしました。

大地君が高校を卒業すると、障害のある人ひとりひとりの能力を最大限に発揮できる授産施設が作れないかと模索しました。県や市に粘り強く働きかけ、膨大な提出書類を用意

し、平成18年に国の許可を得たのです。

人は、重い障害があっても辛抱強く訓練を続ければ、時間がかかるかも知れないが、確実に成長できる。障害者も学び成長を続けるものだという強い信念が、ご夫妻を支えてきました。その信念のもと、訓練を続けた大地君は、プロの音楽家とも共演できるサックスの奏者になりました。彼のサックスのピュアな音色は人々に感動を与えています。

ご夫妻の何より素晴らしいところは、我が子だけでなく同じ様な境遇の人達に、いつも手を差し延べてきたことです。また周囲の数多くの人達に、障害のある人に対する目を開かせ続けたことです。

「障害者福祉は世直し運動です。重症障害者が社会の中心に置かれている。そんな社会であれば、誰でも暮らしやすくなる。」亡き父親森村三美さんが大事にしていた言葉です。

これまでの軌跡を綴った三美さんの「うたえ、君の心を」という著作を一人でも多くの人に読んで戴けたらと思います。

(「ぶどうの木」後援会員、フォーラム会員)

[イラスト・写真等はぶどうの木提供のものを編集して掲載しました：編集部]